

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わらべうた三宿保育園
施設所在地	東京都世田谷池尻3-23-2コンフォリア三宿2階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

栽培・食育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭が無い代わりにテラスがある。そのテラスに畑を設定し、身近に触れる自然から、植物の成長や普段口にする食材が出来ることへの興味関心を深める。また、栽培活動から食への興味、意欲へと繋げていく。

## 2. 活動スケジュール

### 【子どもの興味からテーマを決める】

・4月、5月：園周辺が公園などに恵まれており、1歳児のころから花や植物に興味をもつ子どもたちが多かった。

テーマを栽培と食育に決定する。

散歩時に見つけた植物の写真を室内に貼り関心を継続させたり、バケツ稲で粃の発芽に取り組み、植物が育つ経験をするなどし、植物や野菜への興味関心を更に探る。

### 【栽培を始める】

・5月～：保育者が育てやすい野菜を5つ(ピーマン、ナス、シソ、人参、オクラ) 提示。子どもたちはピーマン、ナス、シソを選択。子どもが協力しながら、畑作りと苗植えを行う。栽培、発芽したことに興味をもつ。

### 【栽培を楽しむ】

・5～8月：水やり体験をして、苗の変化を保育者が言葉にして伝えていく中で、子どもたちが生育に興味をもつ。

### 【収穫と食育】

・8～9月：収穫。喜びの共有。ピーマンの種を取るなど、クッキングをして、食事への興味を高める。いつもは苦手な野菜も、自分たちが育てたことで、おいしく食べられる様子が見られた。食して味や食事への興味、意欲がわく。

### 【新しい栽培を始める】

・10月～：スタッフが提示した野菜の候補(小松菜・サツマイモ・パセリ、大根)の中から、小松菜、サツマイモを栽培することを子どもと一緒に決める。特にサツマイモは土の中で育つ野菜のため、生育状況がわからない。目に見えなくても生育や収穫を楽しみにできるように話をするなど、期待を高められるようスタッフが声をかけ、子どもたちと一緒に栽培をすすめていく。

### 【収穫と食育②】

・11月：<収穫>小松菜、サツマイモを収穫。特にサツマイモについてはちゃんと育っているかどうか心配だったこともあり、サツマイモができていた時の喜びは大きかった。収穫も子どもたちがツルを引っ張ったり、土を掘ったり、などみんなで協力して収穫ができた。

<スイートポテト作り>素材の皮を剥く、つぶす、スイートポテトの形に成形する、など一連の調理の工程を子どもたちが体験することで、収穫の喜び、食べる喜びを感じることができた。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・4月 図鑑や絵本を購入し、身近な植物や野菜を知ったり関心を持てるようにする
- ・5月 発芽が分かりやすいバケツ稲を実施するために、バケツを購入。  
バケツ稲のもみは本社より提供。  
畑の設定出来るよう土や肥料、シャベルを購入。  
子どもたちも一緒に考えた育ててみたい野菜の苗（ピーマン・ナス・シソ・パセリ・小松菜・サツマイモ）を購入。\*秋以降の栽培の候補の苗も購入。  
畑を設定。
- ・6月 苗（ナス・サツマイモ）を追加購入。\*秋以降の栽培の候補の苗も早めに購入。
- ・7月 野菜の生長を促すため、追肥を購入。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

#### ・植物や野菜への興味を深める環境作り①

図鑑や絵本を通して、身近にある植物や野菜を知る。戸外活動で見つけた植物を図鑑で探したり、図鑑で見たものを戸外活動中に探したり、興味が深まる。八百屋など店頭に並ぶ野菜へも関心を向ける。

#### ・植物や野菜への興味を深める環境作り②：

お米の発芽に挑戦。植物が育つのに必要な物（水）や発芽等の変化がうまれることへの大きな関心がみえる。

#### ・植物や野菜への興味を深める環境作り③：

畑の設置を子ども達も一緒に行い、野菜が育つ環境を知ったり、またそれを自分たちの手で作ることへの喜びを感じる。

#### ・植物や野菜への興味を深める環境作り④：

野菜が生長していく過程を観察。普段の生活や図鑑等で目にした見た目に近づいてくることへの驚きと喜びを感じている。まだ実っていない野菜はどのように大きくなっていくのか関心を深めている。

#### ・植物や野菜への興味を深める環境作り⑤：

収穫したものを食してみる。ピーマンの種を取る作業をする中で、野菜の中身にも興味を持つことが出来ていた。野菜が苦手な子どもも進んで味わう姿がある。調理への関心も深まる。→ピーマンの収穫、食育（火を通しただけのピーマン、ピーマンのおかか和え）。

#### ・植物や野菜への興味を深める環境作り⑥：

種類の異なる野菜の収穫。土の中で育つサツマイモの生育状況を子どもたちは常時確認することは出来なかったが、目に見えないサツマイモを選択して生長を想像することで、子どもたちの考える力や想像する力がついた。

調理を自分たちで行い食することへの喜び、食事への意欲が深まる→サツマイモの収穫（芋掘り）。スイートポテト作り。夏のピーマンの食育では簡単な味付けの素材そのものの見た目と味を味わったが、後期はクッキングへの関心も高まったため、素材を調理して料理へと変化する過程も楽しめるよう、スイートポテト作りを実施。より、自分たちで作った喜びや、自分たちが手をかけたことで食することへと繋がったという思いを感じることが出来ていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・「お米の赤ちゃんはお水を飲むと大きくなるよ」と保育者が伝えると、「いっぱい飲んでね」「大きくなるの?」と声をかけて水の中に米を入れ、興味深そうに見ていた。
- ・発芽に気付いた子どもが「赤ちゃん出てきた」と嬉しそうに周囲に知らせていた。
- ・「もっと大きくなるためには土のお布団に入れてあげないといけないんだよ」と伝えると、「お布団作ってあげる」と意気込んでいた。
- ・興味が膨らんできているので、様々な野菜の栽培へと発展させる。お米以外にもどのような野菜を育てていきたいか、図鑑などを見ながら子どもたちと相談していくと、「お芋」などの声上がる。
- ・畑作りでは「ふかふかのお布団がいいんだよ」と話し、雑草を抜いたり、スコップで土を掘り起こしていた。
- ・苗を植える際には「お芋ないよ」「ピーマンじゃないよ」など、普段目にはしている野菜と見た目が異なることに不思議そうにする様子があった。「どんな風にピーマンになるのかお水をあげながらみてみようね」と保育者が話し、生長を期待できるようにした。
- ・水やりをしていくなかで、実が出来てくるのを発見し「ピーマンの赤ちゃん出来てるよ!」と喜びと驚きを他児や保育者と共有していた。「〇〇組さんにも教えてあげようか」と保育者が伝えることで、喜びをさらに園全体で共有していけるようにした。
- ・収穫したものを食べる際には、「みんなが大事にお水をあげたから大きくなったよ。いつもよりも美味しくなっているかもね」と保育者が話すと「僕がお水あげたんだよ」「ピーマン嫌いだけど食べてみたよ」と自ら栽培した野菜を特別に感じていた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

植物等への興味は以前からもあったが、それが活動を通してより深まった。

また、現在の2歳児クラスは食事への興味が薄かったり好き嫌いが目立つ子が多くいたが、自分たちで栽培をしたことで、苦手な野菜も口にしてみようという気持ちが芽生えてきていた。

また、収穫したもので食育・クッキングをすることで、更に食材や食への興味関心が増していった。「このお野菜はどうやって出来るの?」「今度はカレーを作ってみようか」など、子どもたちからも、次の活動へのアイデアや意欲が湧いていた。

愛着を持ったりすることで、苦手なものへも一歩が踏み出せるということを改めて気付かされた。

栽培から食育へと繋げることで、子どもたちも気持ちもより活動へと向き、保護者や他クラスも巻き込んで、皆が興味関心をもって活動を楽しむことが出来たと思う。

実際にいくつか栽培する野菜を決めて、栽培を始めたものの、今年度の暑すぎる気候や園の環境などの要因で思うように育たなかった野菜もあった。生育が思うようにいかなかった際には、「暑すぎてお野菜も元気がなくなっちゃみたい」など、気候などにも関心が向くようにした。また、成功しないこともあるという経験を子どもたちと一緒にすることで、次は成功するようにと意欲や興味を繋げていくことができた。今の気候や自園の環境でも育ちやすい野菜や、秋以降も栽培や収穫ができる野菜を探したり、失敗を改善して再度次年度栽培にチャレンジしたり、と年間を通しての栽培と食育を行っていきたい。

2歳児がテラスで栽培をすることで、年間を通して園に栽培がある、野菜が育てられているという環境ができた。栽培する様子がどのクラスも目に入ることで、2歳児だけではなく、0、1歳児も収穫した野菜に興味を示す環境を構築することができた。2歳児の探求が他クラスへの興味関心・探求へも繋がっていくきっかけとなった。収穫野菜の調理では皮むきのお手伝いをお願いしたり、作ったもの他クラスにもおすそ分けするなど他クラスもど楽しむ環境もできたので、引き続き2歳児を中心とした活動や環境をつくっていく。